

1. 研究課題名：

東日本大震災を踏まえた電源構成の転換を実現するためのシナリオと方策に関する研究

2. 研究代表者氏名及び所属：

吉田好邦（東京大学 大学院新領域創成科学研究科）



3. 研究実施期間：平成 24～25 年度

4. 研究の趣旨・概要

東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故以降、原子力発電の先行きは不透明感を増す一方、再生可能エネルギーには、一層の役割の増大が期待されている。本研究では、原子力発電については政府で検討が進められている削減目標を前提にするとともに、再生可能エネルギーの導入について複数のシナリオを設定する。その上で、出力安定性、出力密度等の制約を有する再生可能エネルギーの大量導入を進めて電源構成の大転換を目指すという、世界に類を見ない移行プロセスを円滑に進めるための道筋と対応策を示し、電力の安定供給と低炭素社会の実現を両立するための環境政策に寄与することを目指している。

5. 研究項目及び実施体制

- ①再生可能エネルギー導入を中心とした電源構成の移行プロセス及び制度的課題に関する研究（東京大学）
- ②地理的・時間的解像度を高めた電力需給モデルの構築（東京大学）
- ③新しい電力供給システム実現のコストならびにこれがわが国の経済に及ぼす影響の評価（東京大学）

6. 研究のイメージ

